

国語 選抜試験

新小六

一 次の——線の読みを書きなさい。

(4)(1) 銀河系の星が見える。
南の島に移住する。

(5)(2) 理科で仮説を立てる。
会議の在り方を考える。

(3) 自分の潔白を主張する。

二 次の——線を漢字で書きなさい。

(4)(1) 母のきよかを得る。
消息がたえる。

(5)(2) 道路をしゅうふくする。
物事をあんいに考えない。

(3) このお菓子はこうひょうだった。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の□にあてはまる動物の名前を、ア～カからそれぞれ選び、()の意味を表すことわざを完成させなさい。
(2)(1) □も歩けば棒に当たる(〓何かをしようとすると災難にあうたとえ。 出歩けば思わぬ幸運に出会うたとえ。)

ア ねこ イ さる ウ 犬
エ たか オ からす カ つる

問二 次の各文の主語を、ア～カからそれぞれ選びなさい。

(2)(1) ア おじさんの形見だ、ウこの古いオこわれたカ時計は。
 イ 大空を、エゆうゆうと、ウ大きな、エ白い、オ鳥が、カ飛ぶ。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

① 親ゆずりのむてつぼうで、子どものときから、そんなかりしている。小学校にいるじぶん、学校の二階からとびおりに、一週間ほど腰をぬかしたことがある。「なぜ、そんなむちゃをした。」と聞く人があるかもしれぬ。べつだん深いわけでもない。新築の二階から首をだしていたら、同級生の一人がじょうだんに、「いくらいばつても、そこからとびおることはできない。よわむしやあい。」とはやしたからである。小使におぶさつて帰ってきたとき、おやじが大きな目をして、「二階くらいからとびおりに、腰をぬかすやつがあるか。」といったから、「このつぎは、ぬかさずにとんでみせます。」と答えた。親類のものから、西洋でできたナイフをもらって、きれいな刃を日にかざして、友だちに見せていたら、一人が、「光ることは光るが、切れそうもない。」といった。「切れぬことがあるか、なんでも切ってみせる。」とうけあった。「そんなら、きみの指を切ってみろ。」と注文したから、「なんだ、指くらい、このとおりだ。」と、右の手の親指の甲を、はすに切りこんだ。さいわい、ナイフが小さいのと、親指の骨がかたかったので、いまだに親指は手についている。しかし、きずあととは死ぬまで消えぬ。

(注) 小使い——用務員。

(夏目漱石「坊っちゃん」より)

問一 この文章で実際に登場している人物が、次にあげた人以外にもう一人います。その人物を文中から書きぬきなさい。

・主人公 ・同級生の一人 ・小使い ・親類のもの ・友だちとその友だちの中の一人

問二 —線①「親ゆずりのむてつぼう」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「むてつぼう」の意味として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 手だてやくふうをもっていないという意味。
 イ 一直線にまっしぐらに進むという意味。
 ウ 前後を考えずにむちゃをするという意味。
 エ まわりの人への思いやりがないという意味。

(2) 主人公が行った「むてつぼう」な行為として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 自分の親指を自分のナイフで切ったこと。
 イ 学校の二階から首をだしたこと。
 ウ 二階からとびおりに腰をぬかさなかったこと。
 エ ナイフの刃を日にかざして友だちに見せたこと。

問三 —線②「きずあととは死ぬまで消えぬ」とありますが、このときの主人公の気持ちとして最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 昔のいやな思い出であるきずあとが死ぬまで消えないのは、いやだなあと思う気持ち。
 イ きずあとが消えないくらいにナイフで親指を切ったことを、こうかいする気持ち。
 ウ 親指をきずつけたために親指は残ったが、ほかの指だったらと思うとぞつとする気持ち。
 エ きずあとを見ると自分ながらに、小さいころからむてつぼうだったなあとと思う気持ち。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「両親が離婚した少年・吉見は、父とその再婚相手のチカちゃん、おばあちゃんの四人でくらしている。以前吉見の家」のとなりに住んでいた浩介さんと無断外泊した翌日に、吉見は熱を出して寝込んでしまった。

おばあちゃんは急にうるさい人になった。なぜうるさくなったか、吉見にはわかっている。①おばあちゃんはチカちゃんが吉見を虐めていると思込込んでいるのだ。なぜそう思うかという点、それは吉見が浩介さんと出かけて無断で泊まって来たからだ。

でもそれはチカちゃんとは関係のないことだ。チカちゃんは何もしていない。そのことをおばあちゃんに呑み込ませたいが、どういうふうにいえば呑み込むのがわからない。

「吉ッちゃん、隠さないでいってごらん。あるんでしょ、辛いこと……」とおばあちゃんはいった。

辛いことはある。楽しいことなんか何も無い。だがそれはチカちゃんのせいじゃない。じゃあ何のせいだ、と訊かれると困るから吉見は何もいわない。学校でどんな目に遇っているかなんて、いえない。おばあちゃんにも、パパにも、ママにも！ 誰にも。

熱は少し下がった。それでも三十八度だ。駒田先生は薬をくれてそのうちお腹にくるかもしれないよ、といった。「お腹にくる」と病気は長引くのか？ ②それを待ちうける、といった気持ちだった。

「ジュースばかり飲んでないで、何か消化のいいものを食べた方がいいよ」おばあちゃんはいった。「玉子のおじやはどう？ それとも茶碗蒸し？ 野菜スープがいいかしらね」べつに食べたいものはなかった。

「食べたくなるといって来るからって、ほつとかないでね。あれやこれや考えてやってちょうだい」おばあちゃんはチカちゃんにいった。「お粥くらいは作ってやってよ。コンビニで買って来たらしらないで。お粥、作れるんでしょ？」「お湯にご飯入れて火にかければいんでしょ？」「それは冷ご飯を始末する時よ。病人だからお米から炊いてちょうだいよ。でないとおいしくないし、第一力がつかないわ。水をたっぷりにして弱火でコトコトとね。吹きこぼれないように注意して」

おばあちゃんは昨夜は吉見が心配で殆ど眠らなかつた、といい、チカちゃんがコーヒーをいれる点、こののを断って昼寝をしに母屋へ戻って行った。

眠らなかつたなんて嘘だ。三時頃から朝まで、吉見はおばあちゃんのイビキのために何度も目が醒めた。チカちゃんにそういうとチカちゃんは面白がつて、どんなイビキ？ ブルドーザー型？ 蒸気機関車型？ それとも断末魔？ といった。「そのミックスだよ」というと、「そりゃスゲエ」と面白がつた。さつきおばあちゃんからあんなにやられてたのに。チカちゃんはエライ。

熱は三十七度五分になった。だがまだ学校は無理だと駒田先生はいった。吉見は駒田先生が好きになった。

③吉見は駒田先生の薬を飲んだふりしてトイレに流した。先生は「」といったのに下痢は始まらない。吉見はバジャマのズボンをずらしてお腹を出して寝た。それでも熱は少しずつ下がっていく。吉見は体温計を逆さに振って三十七度八分にしておいた。夜、パパが部屋に入って来たので眠ったふりをしていて、パパは黙って体温計を見て下へ降りて行った。「駒田先生の薬、効かないなあ」といっている。「明日は土曜日だけど、第一だから学校は休みじゃないのよね。青柳先生に電話しなくちゃ。月曜から行けるかしら」チカちゃんというのが聞こえて、④吉見はギョツとした。そうだ、明日は土曜日だ、しまった、忘れていた！ ママの所へ行く日だ……。ドジった！

(佐藤愛子「風の行方」より)

問一 線①「おばあちゃんはチカちゃんが吉見を虐めていると思込込んでいる」とありますが、その理由がわかる一文を文中からさがし、初めと終わりの五字を書きなさい。

問二 線②「それを待ちうける、といった気持ち」とありますが、このときの吉見の気持ちとして最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア どんな病気にも負けないぞと、決意する気持ち。 イ もつと病気が長引く点いいなど、期待する気持ち。

ウ 何が起こるのかわからないので、不安な気持ち。 エ 早く病気が治ってほしいと、いのる気持ち。

問三 「チカちゃん」の性格として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア 意地悪で冷たい性格。 イ 内気で引込込み思案な性格。

ウ 神経質で気の弱い性格。 エ おおらかで明るい性格。

問四 線③「吉見は駒田先生の薬を飲んだふりしてトイレに流した」とありますが、吉見はなぜこのようなことをしたのですか。その理由を「薬」、「学校」の二語を用いて、四十字以内で書きなさい。

問五 文中のにあてはまる言葉として最もふさわしいものを、文中から五字で書きぬきなさい。

問六 線④「吉見はギョツとした」とありますが、その理由を述べた次の文のA・Bにあてはまる言葉を、文中から二字以内でそれぞれ書きぬきなさい。

・ A が下がらなければ、B に会えなくなるから。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「ちゃんと」や「きちんと」の内容が、時々あなたにはわからない時があるのかもしれませんが、ほとんどの場合にはあなたにはわかるはずです。①それはなぜでしょう。

それは、それぞれの場面で、お母さんやお父さん、時にはお祖父さんやお祖母さんが「これをしなさい」「こんなことをすると、叱られますよ」「これこれをしたらダメでしょう」という言い方で、どんな時にどんな振り舞いをすればいいのか、あるいはどんなことをしてはいけないのかを、あなたに何度も何度も教えているからです。あなたにお姉さんやお兄さんがいれば、どんな時にお姉さんやお兄さんがお母さんたちから注意されたり、叱られたり、ほめられたりするのかを見ることができます。そうして、いつの間にか、あなたは、どんな時に「ちゃんとしなさい」と言われたら、どうすればよいのかがわかってしまうのです。生まれて十年くらいの間には、そんなことがわかってしまうなんて、本当に素晴らしいことですね。

ところで、「ちゃんとする」ことの内容は、成長するにしたがって、ドンドン増えていきます。大人になっても、仕事場が変わったり、同じ会社の中でも地位が上がると内容が変わります。結婚したり、子どもが生まれて、お父さんやお母さんになると、内容がますます複雑になってきます。同じ時にいくつもの「ちゃんとする」ことができない場合には、どれが一番大切にしないといけないのか、順番をつけて選ばなければならぬこともあります。A、働いているお母さんが朝出かけようとした時、日頃仲良くしている近所の一人暮らしのおばあさんが急病になりました。おばあさんを病院に連れて行けば、お母さんの職場の午前中の大切な仕事を果たすことができませぬ。「ちゃんとした近所づき合い」と「ちゃんとした仕事ぶり」の両方を一度にできないのですから、お母さんはどちらかを選ばなければなりません。もう少し気楽な場合でも、「ちゃんとする」ことを選ぶのは大変です。それは、大人だけでなく子どもにとつても難しいことです。

あなたは明日先生に提出しなければならぬ宿題をしています。そこへ友だちが魚釣りに行こうとやって来ました。約束していたことをあなたはすっかり忘れていたのです。魚釣りに行ったら宿題を全部すませることはできません。B、約束していたのにそれを破ると、その友だちはもう魚釣りに誘ってくれないかもしれないし、第一、仲のいい友だちに「あいつはあんなやつだ」と悪く思われるのはたまらなく辛いことです。でも、宿題の提出ができなければ、先生になまけものだと思われるかもしれません。あなたは、どちらを選びますか。

「ちゃんとする」ことについては、もつと難しいことがあります。それは、人によってその内容が違っている場合です。たとえば、②約束の時間に遅れることは「ちゃんとしていない」と考えて、自分では決して約束の時間に遅れることのない人と、時間を守ることが「ちゃんとしていること」だとまったく考えたこともない人が恋人同士になったり、友だち同士になったらどうでしょう。時間を守るほうの人は、守らない人が次第に嫌いになってしまい、やがて別れてしまうかもしれません。③困ったことには、嫌われたほうの人は、なぜ自分が相手に嫌われるようになったのか理解できないことです。

(波平恵美子「生きる力をさがす旅」より)

問一 ― 線①「それ」がさしている内容を、文中の言葉を用いて書きなさい。

問二 A・Bにあてはまる言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア A：たとえば B：では
イ A：たとえば B：でも
ウ A：ところで B：では
エ A：ところで B：でも

問三 ― 線②「大人だけでなく子どもにとつても難しいことです」とありますが、どのようなことが難しいのですか。最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 「ちゃんとする」ことの中からしなくていいことを選ぶこと。
イ 二種類の「ちゃんとする」ことを両立させること。
ウ いつ「ちゃんとする」べきかを判断すること。
エ 「ちゃんとする」ことを選ぶこと。

問四 ― 線③「約束の時間に遅れることは恋人同士になったり、友だち同士になったらどうでしょう」とありますが、これはどのような場合の例ですか。次の文の にあてはまる言葉を、文中から二字で書きぬきなさい。

・人によって「ちゃんとする」こと が違っている場合の例。

問五 ― 線④「困ったこと」とありますが、どのようなことに困ったのですか。次の文の a・bにあてはまる言葉を、文中からaは八字で、bは六字でそれぞれ書きぬきなさい。

・ a が、なぜ相手に嫌われたのか b こと。